



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.26 2022. 8. 28 発行

自分で選びなさい!

ヨシュア記24章11-18節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

今月から、モーセの後継者ヨシュアのことを学びます。荒れ野の40年を導いたモーセが、約束の地カナンに入る直前に死にます。その後を継いだヨシュアは、神さまからお言葉をいただきます。「一生の間、あなたの行く手に立ちただかる者はないであろう。わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ。…どこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」

励まされたヨシュアは、イスラエルの民を率いてヨルダン川の東からカナンの地に入って、その土地を神の御心に従って治めるために、イスラエルの12部族それぞれが受け継ぐ土地を割り当てるためにくじ引きをします。「ええ、くじ引きで?決めるの??」そうです。聖書には、神さまの御心を知るためにくじ引きする場面がしばしば登場するのは、それぞれの部族には「自分たちには、ここが当たったらいいなあ」という思いがあったでしょう。それだけでなく、既にカナン地方に暮らしていた先住民族もいましたから、カナン地方を治めるには、大変な困難がありました。ヨシュアは、神さまへの信頼を忘れずに、その困難を乗り越えて務めを果たします。

おじいさんになったヨシュアは、イスラエルの民に大切なことを言い遺します。それは「ここまで導いてくださった真の神さまを敬い、真心こめて仕えること」でした。民は「もちろんです」と自信満々に答えます。でもヨシュアにはそれが「あやしい」と分かっていた。既に主なる神さま以外のものに心が動かされていた人々が大勢いたからです。そこで、ヨシュアは「どの神々でも、あなたが仕えたいと思うものを、今日、自分で選びなさい」と迫ります。なぜなら、人間は「忘れんぼ」だからです。自分の都合優先で、神さまの恵みをいつのまにか忘れてしまう「忘れんぼ」からです。今日私たちにも、その言葉が迫ってくるのではないのでしょうか?



堀内長老からのメッセージ

8月6日は77年前、広島市が、そして9日は長崎市が原爆に被爆した日です。9日に長崎市で行われた平和祈念式典の中継を見ました。式典の司会は長崎市にある海星高校の生徒でした。海星高校は、カトリックの学校ですが、併設の海星中学では、学校全体で考えた「平和宣言文」を発表しています。その宣言文では「お互いの人権を尊重し、周りの人と協力して平和の輪を広げます。校訓である『神愛・人間愛』の精神を忘れず、他者を思いやる心を持ちます。周りの人を笑顔にするような、温かな言葉を使って人に接します。世界平和のために、戦争の恐ろしさを伝え、平和を築こうとする願いを育てるために、まず身近な争いをなくし、笑顔を増やしていきましょう。」と記しています。皆さんもこの夏、平和について学び、考えました。私たちが以前用いていた『こどもさんびか』にこのような歌があります。「なかよし勉強愛のわざ、主イエスにならうおこないは、神の力によるのです。にくしみあらそい 悪のわざ、主イエスにそむくおこないは、神をはなれた結果です」私たちも身近な所から一步一步、平和のために歩いていきましょう。

